

☆聖書で祈る☆ : “教会” のさまざまなイメージ

マタイ 25 : 37~40 「最も小さい者の一人にしたのは」

37:すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。38:いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。39:いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』40:そこで、王は答える。『はっきりしておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

ルカ 4 : 18~19 「私を遣わされたのは」

18:「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、19:主の恵みの年を告げるためである。」

使徒言行録 2 : 44~47 「皆がそれを分け合った」 (本文省略)

▽参考資料▽

教会憲章 1 (第1章 教会の秘義について 序文)

キリストは諸民族の光であるから、聖霊において参集したこの聖なる教会会議は、すべての被造物に福音を告げることによって(マルコ 16:15 参照)、教会の面上に輝くキリストの光をもってすべての人を照らすことを切に望む。教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具であるから、これまでの公会議の教えを守りつつ、自分の本性と普遍的使命とを、その信者と全世界とに、より明らかに示そうとする。・・・

現代世界憲章 1 (序文——全人類と教会との深い連帯性)

現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事がらで、キリストの弟子たちの心に反響を呼び起こさないものは一つもない。それは、かれらの共同体が人間によって構成されているからである。かれらはキリストにおいて集まり、父の国への旅において聖霊に導かれ、すべての人に伝えなければならない救いのメッセージを受けている。・・・

現代世界憲章 3 (人間に対する奉仕)

・・・実際、人間こそ救うべきであり、人間社会こそ刷新すべきである。人間、すなわち統一であり全体である人間、肉体と靈魂、心と良心、思想と意志を備えた人間こそ、われわれの全叙述の中心点である。

それゆえ、この公会議は人間の崇高な召命を宣言し、人間の中に神的な種子が置かれていることを肯定し、人間のこの召命に相応するすべての人の兄弟的一致を確立するために、教会の誠意に満ちた協力を人類にささげる。教会はけっして地上的野心によって動かされているのではない。教会の望むことはただ一つ、すなわち、真理を証明するために、裁くためではなく救うために、奉仕されるためではなく奉仕するために、この世に来たキリスト自身の仕事を、弁護者である霊の導きのもとに続けることである。

使徒職教令 5 (二つの秩序)

キリストのあがないのわざは、本来、人の救いを目ざすものであるが、それはこの世の秩序全体の刷新をも含んでいる。したがって教会の使命は、ただキリストの福音を告げ、その恩恵を人々にもたらすだけではなく、この世の秩序を福音の精神で満たし完成することである。それゆえに、教会のこの使命を遂行する信徒は、教会においても世間においても、霊的な秩序においても現世的な秩序においても、その使徒職を果たすのである。・・・